

2022年度「線区活用に関する検討会」の取り組みについて

2019年度より、ご利用状況が大きく減少した線区を対象に、県や沿線自治体、九州運輸局と当社による協働の取り組みとして「線区活用に関する検討会」を開催しております。

この検討会では、鉄道の持続可能性を高めていくことを目的に、沿線自治体の皆さまと当社が一緒になって、線区の現状を相互理解し、線区活用策に取り組んでおります。

今後も本検討会の取り組みなどを通じて、地域の皆さまと持続可能な交通ネットワークの提供に努めてまいりますので、より一層ご利用いただきますようよろしくお願いいたします。

○ 2022年度の開催線区およびこれまでの開催実績

【対象線区】

- ◇筑肥線(伊万里-唐津)
- ◇吉都線(吉松-都城)
- ◇指宿枕崎線(指宿-枕崎)
- ◇日南線(油津-志布志)

【上記4線区のこれまでの検討会開催実績】

- ・2019年度:2回、2020年度:3回、2021年度:4回、2022年度:3回
2023年度:1回(2023年7月24日時点)

○ 各線区における取り組み内容

- ◇別紙参照

※ 2022年度より、各線区の取り組みを沿線にお住まいの方々に広く知っていただきたいと考え、本検討会における前年度の取り組み状況等を公表しております。なお肥薩線(八代-人吉、人吉-吉松)は災害のため休止中です。

「筑肥線(唐津～伊万里)活用に関する検討会」 における2022年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

筑肥線(唐津～伊万里)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くの方々に選ばれる交通手段とすることを目的として、2022年度は「筑肥線活用に関する検討会」を計3回開催しました。

本検討会では、筑肥線のご利用実態に関する情報共有や、ご利用いただくための活用策の検討およびそれらを各主体で実施した結果、多くの方々にご参加いただきました。

2. 出席者

唐津市、伊万里市、佐賀県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 実施した主な線区活用策

ロマンシング佐賀 2022 の取り組み

人気ゲーム「サガ」シリーズを展開する株式会社スクウェア・エニックスとのコラボ事業「ロマンシング佐賀 2022」の取り組みとして、

- ・ロマンシング佐賀列車(ラッピング列車)の運行
- ・お得な「ロマ佐賀列車 周遊きっぷ」の発売(スタート割と通常版)
- ・伊万里駅などへのオリジナル駅名標の設置
- ・唐津駅などの駅メロディに“サガ”の楽曲を採用等、筑肥線の利用促進と周辺観光地への周遊促進を図った。



- ・スタート割！ロマ佐賀列車 周遊きっぷ
発売実績:1,028枚 発売期間:2022.10.8～10.31
- ・ロマ佐賀列車 周遊きっぷ
発売実績: 410枚 発売期間:2022.11.1～1.30

伊万里駅ビル開業 20周年記念乗車券発売

伊万里駅ビル開業 20周年にあたり、数量限定で、記念乗車券を伊万里駅みどりの窓口で発売。

改めて筑肥線に目を向けていただき、利活用促進に向けた機運醸成等を図った。



・販売実績: 200セット(完売)

全体

この他にも、以下の取り組みを含む全16件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約3,000名(うちJR利用者約2,500名※)でした。

- ・唐津駅周辺のライトアップによるにぎわい創出
 - ・筑肥線絵画コンクール、駅壁画の制作
 - ・遠足等の行事で鉄道を利用する保育所等への支援
 - ・鉄道を利用した通勤・通学の推進
 - ・鉄道の利活用促進事業を行う地域団体等への支援
- ※筑肥線以外の他線区をご利用のお客さま数も含む

4. 2023 年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しています。引き続き、筑肥線の更なる活性化にご協力をお願いします。

- ・チラシ配布による鉄道利用の推奨
- ・駅周辺での記念イベント開催等への支援
- ・遠足等の行事で鉄道を利用する保育所等への支援
- ・鉄道の利活用促進事業を行う地域団体等への支援
- ・筑肥線絵画コンクール、駅壁画の制作
- ・ロマ佐賀列車を活用した利用促進キャンペーン

「吉都線活用に関する検討会」における2022年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

吉都線を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くの方々に選ばれる交通手段になることを目的として、2022年度は「吉都線活用に関する検討会」を計3回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有や意見交換などを行いました。

また、ご利用状況を改善するため、JR吉都線利用促進協議会や沿線自治体等において様々な線区活用策が実施され、多くの方々にご参加いただきました。

2. 出席者

都城市、高原町、小林市、えびの市、湧水町、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 主な線区活用策（JR吉都線利用促進協議会及び沿線自治体等による取り組み）

「鉄先案内人」の養成とイベント列車の運行

「鉄先案内人」の新規養成を行い、ツアーでの案内係や吉都線沿線のガイドマニュアルの作成などにご協力いただきました。

・養成者：8名

・JR利用者：34名（ツアー参加者）



イベント列車の運行

季節や構成市町の行事等に合わせてイベント列車を運行しました。

・JR利用者：15名



吉都線を活用したツアーへの支援

吉都線を活用したツアーに対する補助を行ったほか、鉄道を利用して地元のイベント等に来場した方に対し、イベントに合わせたグッズ等をプレゼントしました。

・JR 利用者:424 名



吉都線団体利用への支援

沿線自治体管内の団体が吉都線を利用される際に運賃の補助を行い、小中学生等の団体ご利用されました。

・JR 利用者:739 名(23 団体)

全体

この他にも「JR九州ウォーキングの開催」など6件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約1,400名(うちJR利用者約1,300名)でした。

4. 2023年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しています。今年は、吉都線全線開業110周年の年です。引き続き、吉都線の更なる活性化にご協力をお願いします。

- ・官民連携で取り組む通勤定期購入支援
- ・吉都線全線開通110周年記念事業
- ・小中学校や幼稚園、老人クラブ等の活動を対象とした吉都線団体利用への支援

「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」 における2022年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

指宿枕崎線(指宿～枕崎)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くのお客さまに選ばれる交通手段になることを目的として、2022年度は「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」を計3回開催しました。

検討会では、線区のご利用実態に関する情報共有や、ご利用者を増やすための線区の活用策の検討および実施に向けた協議などに取り組み、それらを踏まえ各主体にて活用策を実施した結果、多くの方にご参加等頂きました。

2. 出席者

指宿市、南九州市、枕崎市、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 実施した線区活用策

JR 指宿枕崎線利用促進事業①

社会見学を行う団体への運賃の一部補助や小中学校の校外学習における運賃全額補助、各種啓発活動を実施しました

- ・広報紙や市HPでの利用啓発
- ・教育委員会や学校への働きかけ実施
- ・課外授業への講師派遣
- ・参加者174名(うち、JR利用者174名)



列車を利用した「謎解きイベント」の実施

鉄道の魅力発信や鉄道での移動促進を目的に、列車の移動を伴う謎解きイベント「探偵ニャーロックと消えた三つの秘宝」を企画・開催しました。

- ・参加者78名

JR 指宿枕崎線利用促進事業②

指宿枕崎線をテーマとした紙芝居の作成・配布、フリーペーパーによる情報発信を行い、鉄道の魅力の発信を行うとともに、列車内講座や車窓フォトコンテスト、イベント列車を実施し鉄道の利用促進を図りました

- ・参加者118名(うち、JR利用者118名)

西穎娃駅を利用したイベントの開催

西穎娃駅の駅舎や駅前スペースを活用し、鉄道模型壮行会やミニマルシェ等のイベントを実施しました

- ・来場者63名(うち、JR利用者58名)



「いぶすきバル」の開催

指宿駅前でいぶすきバルを2回開催し、併せてJR利用者への運賃の補助を行うことで、地域間交流の拡大と鉄道利用の促進を図りました

- ・来場者820名(うち、JR利用者60名)

全体

この他にも指宿枕崎線シンポジウムや、SNS を利用したフォトキャンペーン、沿線の駅の清掃活動など 4 件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約 1,600名(うち JR 利用者 約 670 名)でした。

4. 2023年度に実施予定の主な線区活用策

2023 年度は以下の活用策の実施を予定しております。今年は、指宿枕崎線全線開業 60 周年の年です。引き続き、指宿枕崎線の更なる活性化にご協力をお願い致します。

- ・枕崎駅付近の南溟館「果ての鉄道展」を開催
- ・指宿駅前における「いぶすきバル」の開催
- ・西穎娃駅の駅舎等を活用したイベント等の開催
- ・未就学児や児童生徒、高齢者の団体利用への支援及びその広報(JR 指宿枕崎線利用促進事業)
- ・謎解きイベント開催や企画乗車券造成への支援など(地域鉄道活性化支援事業)

「日南線活用に関する検討会」における2022年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

日南線を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くの方々に選ばれる交通手段になることを目的として、2022年度は「日南線活用に関する検討会」を計3回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有や意見交換などを行いました。

また、ご利用状況を改善するため、JR日南線利用促進連絡協議会や沿線自治体等において様々な線区活用策が実施され、多くの方にご参加いただきました。

2. 出席者

宮崎市、日南市、串間市、志布志市、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 主な線区活用策（JR日南線利用促進連絡協議会及び沿線自治体等による取り組み）

福島高校と連携した利用促進イベント

福島高校と連携し、高校生だからできる利用促進策を考えてもらった上で、事業費の一部を補助して実際に実施してもらいました。

・JR利用者：31名

【福島高校生と行く青島アドベンチャーツアー！】



日南線団体利用への支援

日南線の駅(南宮崎～志布志)を起点又は終点として鉄道を利用する沿線4市の市内団体に対し、運賃全額を助成する事業を実施しました。

・JR利用者：1,164名(42団体)

日南線を活用した職業観を育む事業の推進・支援

学校教育における社会科見学等における鉄道利用を推奨し、運賃の補助を行いました。

・JR利用者：120名(3校)



つながるマルシェ

志布志駅での「ぼっぼマルシェ」及び串間駅での「よかむんマルシェ」を同日開催し、日南線を使って各会場へ訪問された方に特典を付与し、利用促進を図りました。

・参加者：2,800名(うち、JR利用者約30名)

【ぼっぼマルシェ】



【よかむんマルシェ】



日南線を活用したツアーへの支援

日南線を活用したツアーに対する補助を行ったほか、鉄道を利用して地元のイベント等に来場した方に対し、イベントに合わせたグッズ等をプレゼントしました。

・JR利用者：289名

全体

この他にも「乗り方教室」や「my route を活用した日南1デーフリーパス」など10件の線区活用策を実施し、イベント等を含めた全体の参加者等は約7,000名、うちJR利用者は約4,200名でした。

4. 2023年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しています。今年は、日南線全線開業60周年の年です。引き続き、日南線の更なる活性化にご協力をお願いします。

- ・沿線で開催される各種イベントとコラボした利用促進策の推進、実施
- ・日南線全線開通60周年記念事業
- ・小中学校や幼稚園、老人クラブ等の活動を対象とした日南線団体利用への支援